

〔三宅島特産園芸作物における生産振興技術対策〕  
アシタバ圃場におけるナメクジ類の誘殺消長およびメタアルデヒド剤による防除

坂井亮太  
(島しょセ三宅)

---

【要 約】三宅島のアシタバ圃場におけるナメクジ類の発生数は、3月から増えはじめ、5～7月に最も多くなる。メタアルデヒド剤を用いた防除では、約3週間の密度低減効果が期待できる。

---

【目 的】

三宅島では、ナメクジ類が高密度で生息しているアシタバ圃場があり、食害や出荷物の混入が問題となっている。三宅島のナメクジ類の防除技術を確立するため、発生生態や薬剤による防除効果を明らかにする。

【方 法】

島しょ農林水産総合センター三宅事業所内のアシタバ圃場において、ナメクジ類の誘殺消長を調査した。試料カップ (KP-430) を利用して作成したトラップ (図3) にメタアルデヒド剤 (ナメキール) 1g を入れ、誘殺されたナメクジ類を計数した。誘殺消長の調査は、2012年1月～12月まで、1ヵ月に4、5回行った。

三宅村坪田地区のアシタバ圃場(13.5m×7.6m)において、メタアルデヒド剤を用いた防除試験を行った。メタアルデヒド剤100g/100m<sup>2</sup>を、アシタバ圃場全体にまばらに設置した。メタアルデヒド剤を設置する7日前～設置後35日まで、処理区と無処理区においてナメクジ類の誘殺数を調査し、補正密度指数を算出した。

【成果の概要】

1. 三宅島のアシタバ圃場におけるナメクジ類の誘殺数は、3月から増加しはじめ、5～7月に最も多くなった。1、2月および8月以降のナメクジ類の誘殺数は、低く推移していた (図1)。
2. 2012年7月にメタアルデヒド剤による防除試験を行ったところ、メタアルデヒド剤設置直後～設置21日後まで、ナメクジ類の密度を約1/4に減らすことができた (図2)。メタアルデヒド剤設置29日以降は、補正密度指数が100を越えていた。
3. 試験開始から補正密度指数が100を越えた8月8日までの合計降水量は、119.5mmだったが、降雨による薬剤防除への影響は認められなかった (図2)。
4. まとめ:三宅島のアシタバ圃場におけるナメクジ類の発生は、4月～7月にかけて多かった。メタアルデヒド剤を用いた防除では、約3週間の密度低減効果が期待される。ナメクジ類の発生が多くなる4月～6月についても防除試験を行う必要がある。

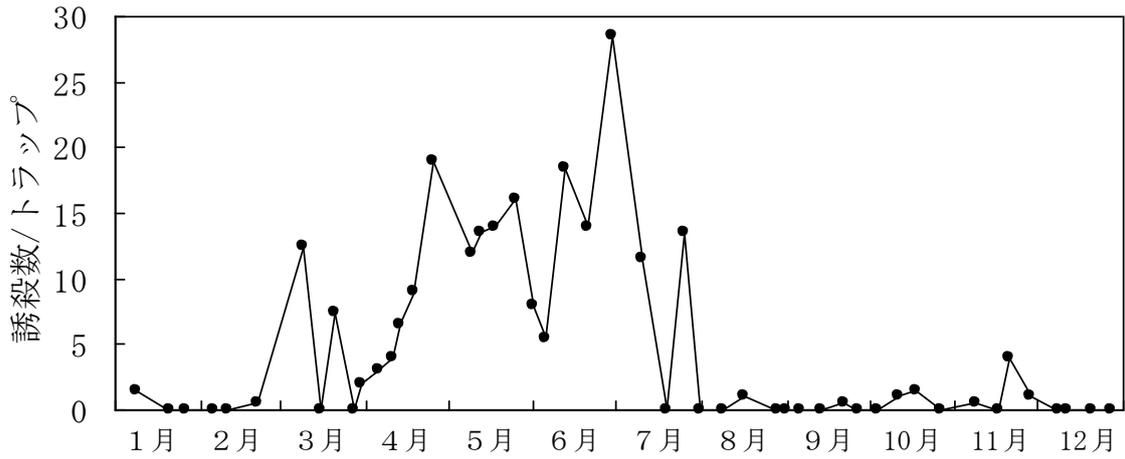


図1 アシタバ圃場におけるナメクジ類の誘殺消長

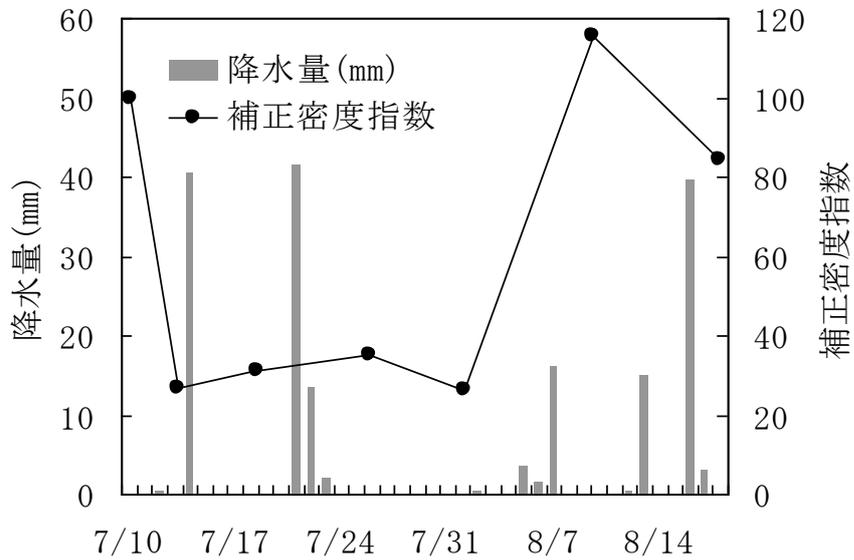


図2 降水量とメタアルデヒド剤による防除効果

- a) 三宅島坪田における1日当たりの降水量 (気象庁ホームページより)
- b) 補正密度指数 = (処理区の○日後密度 / 処理区の散布前密度) × (無処理区の散布前密度 / 無処理区の○日後密度) × 100



図3 ナメクジトラップ